

## 記録用紙

### 令和7年度 第6回学校地域連携運営協議会

日時 令和8年2月27日（金）9：40～ 会場：会議室A 他 司会：助川委員長

#### 校長より

- ・ 学校生活、生徒の様子について説明。
- ・ 生徒集会が行われ、立志塾、広島平和使節派遣に参加したリーダーからの報告会を実施。
- ・ 陸上部が県新人駅伝大会に出場した。福育祭や小中交流の部活動体験などが行われた。
- ・ 本校3年目の高崎教諭が、学区の小学校に出向き、小学6年生の英語の出前授業を行った。
- ・ 年3回の小中合同あいさつ運動等、来年度も続けていきたい。
- ・ 「教育は人」といわれる。人材育成は急務で、ミドルリーダーが中心となって学校をつくっていくという職員の参画意識を高めていきたい。
- ・ 学校関係者評価の「主体的な学びの項目」で、意欲的に学んでいるとの回答が多かった。授業づくりを工夫している点がつながっている。「家庭学習の項目」では、通塾率も高いため、次年度の質問内容を再考して、家庭での学習の実態をつかみたい。
- ・ いじめの対応について、保護者にも学年保護者会等を通じて情報を発信していきたい。

#### 教頭より

- ・ 本年度の生徒指導について説明。
- ・ 本校の課題として、長欠傾向の生徒への対応があげられる。
- ・ 次年度の学校地域連携運営協議会、入学式の予定について説明。

#### 主幹教諭より

- ・ 校内研究、令和8年度の主な行事予定について説明。
- ・ 教員研修について、採用から6年目以降10年目前後の教職員への研修の在り方が重要になってきている。主任層や校務分掌のチーフにあたるミドルリーダーが、研究と修養に努め、初若年層のメンターとなっていく必要がある。研究主任とともにミニ研修を企画したが、40%程度の参加率となったことは、今の教職員の年齢構成を如実に示している。

#### 山高委員より

- ・ 不登校の対応について  
子どもが「学校にいきたくない」とつぶやいたとき、保護者の最初（初期）の対応がその後の支援に大きく関係していく。教職員も「誰でもが不登校になりうる」という姿勢で初期対応に臨む必要がある。学校が生活しやすい場となるよう、指導の多様化も求められている。

#### 見村委員より

- ・ 不登校の原因で一番多いものはどのような理由か。また、小学校からの不登校も多いのか。  
(校長)  
理由は、友人関係、家庭（家族）に起因するもの、勉強の悩み等、さまざまである。

#### 坂上委員より

- ・ 不登校、長欠傾向の生徒の対応について  
「学校への登校が嫌なら、休んでもいいんだよ。」というスタンスも大切にしてほしい。

#### 助川委員長、宮崎委員より

- ・ 3月7日（土）に実行委員会主催で行われる「地域文化祭」についての趣旨、内容を説明。当日の出店計画、進捗状況などが報告された。坂上委員から提供いただいた入船中学校の地域文化祭の資料を参考にさせていただいた。